

ニュージーランドの金利引き下げについて

2015年6月11日

6月11日(現地時間)、ニュージーランド準備銀行(中央銀行)は、政策金利を0.25%引き下げ3.25%にすることを決定しました。昨年、3月から7月まで4回に分けて合計1%の利上げを実施した後、政策金利の据え置きが続いていました。4月末の会合ではインフレ圧力の鈍化による利下げの可能性に言及されていたものの、オークランドの住宅市場の高騰などもあり、事前の予想では据え置きが見込まれていました。今回の決定を受け、ニュージーランド・ドルは主要通貨に対し下落しています。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

今回利下げに至った背景として、物価の鈍化傾向があげられます。

昨年第4四半期の消費者物価指数は前年同期比+0.8%、今年第1四半期は前年同期比+0.1%にまで鈍化し、中央銀行のインフレターゲットを大幅に下回ってきたことがあげられます。中央銀行が調査し、公表している2年先のインフレ予想も1.85%と低迷しており、中央銀行のインフレ見通しも2015年が0.1%、2016年が1.6%となっております。

昨年来の原油・資源価格等国際商品市況の下落、需要や賃金等の低迷による更なる物価下落圧力に歯止めをかける意向を示し、追加利下げを示唆する発言もしています。また、現在の為替水準は依然過大評価されているとも言及しています。

《今後の景気、為替レートについて》

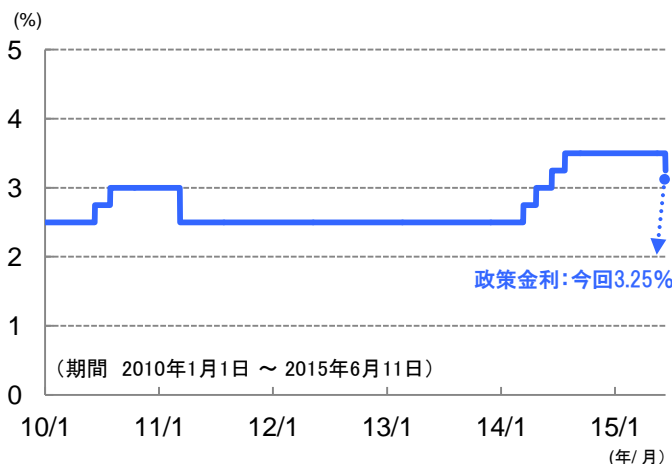
ニュージーランドは概ね良好な景気動向が続いているとみられますが、このところ発表される経済指標は市場の予想を下回り、勢いの鈍化を示唆するものが散見されます。

第1四半期の小売売上高はインフレ調整前で前期比+2.7%と事前の予想、前期を上回る強い伸びとなりました。一方、雇用指標は事前の予想、前期を下回るものとなり、賃金の伸びも前期を下回る低いものとなっています。住宅関連指標は堅調なものが続いているますが、消費者信頼感、企業景況感などは鈍化傾向がみられます

ニュージーランド・ドルは、勢いの鈍化している景気、物価低迷による追加利下げ観測、乳製品等主要な輸出価格の低迷が、当面は減価圧力になるものと見込まれます。しかしながら、高水準の移民の流入が続いており、景気動向は相対的には安定しています。主要中央銀行の金融緩和策の継続、グローバル景気の回復や商品市況の底入れなどはニュージーランド・ドルを下支えするものと見込まれます。また、中期的に回復が見込まれる物価動向を踏まえると、追加利下げの幅も限定的なものともみられ、相対的に高い金利水準により、長期的には安定してくるものと考えています。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

《ニュージーランドの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ニュージーランド・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成